

なはSDGs推進事業（那覇市版SIB）

事業概要説明

2025年6月29日

那覇市市民文化部まちづくり協働推進課



00

なはSDG s 推進事業とは

SDGs達成につながる協働の活動を創出し、社会課題の解決や社会価値の向上又は創造によって、持続可能な地域社会の実現を目指します。
本事業では、まちづくりの新しい資金調達の手法である成果連動型補助金「那覇市版SIB」を取り入れた2年に渡る資金支援と伴走支援を行います。

那覇市版SIB

2年間の資金支援と伴走支援を実施

円卓会議の開催支援、専門家による伴走支援を受けられます。

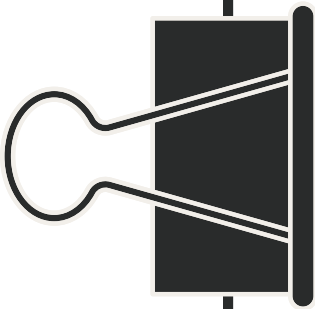
1年目 助成事業

- ・ 2年目に実施するSIBプロジェクトに向けての準備・検証・調査事業等へ助成
- ・ 事業助成、相談対応、地域円卓会議実施などの伴走支援

2年目 SIBプロジェクト

- ・ 成果連動型補助金SIBによる支援（出資募集や出資説明会の運営等支援）

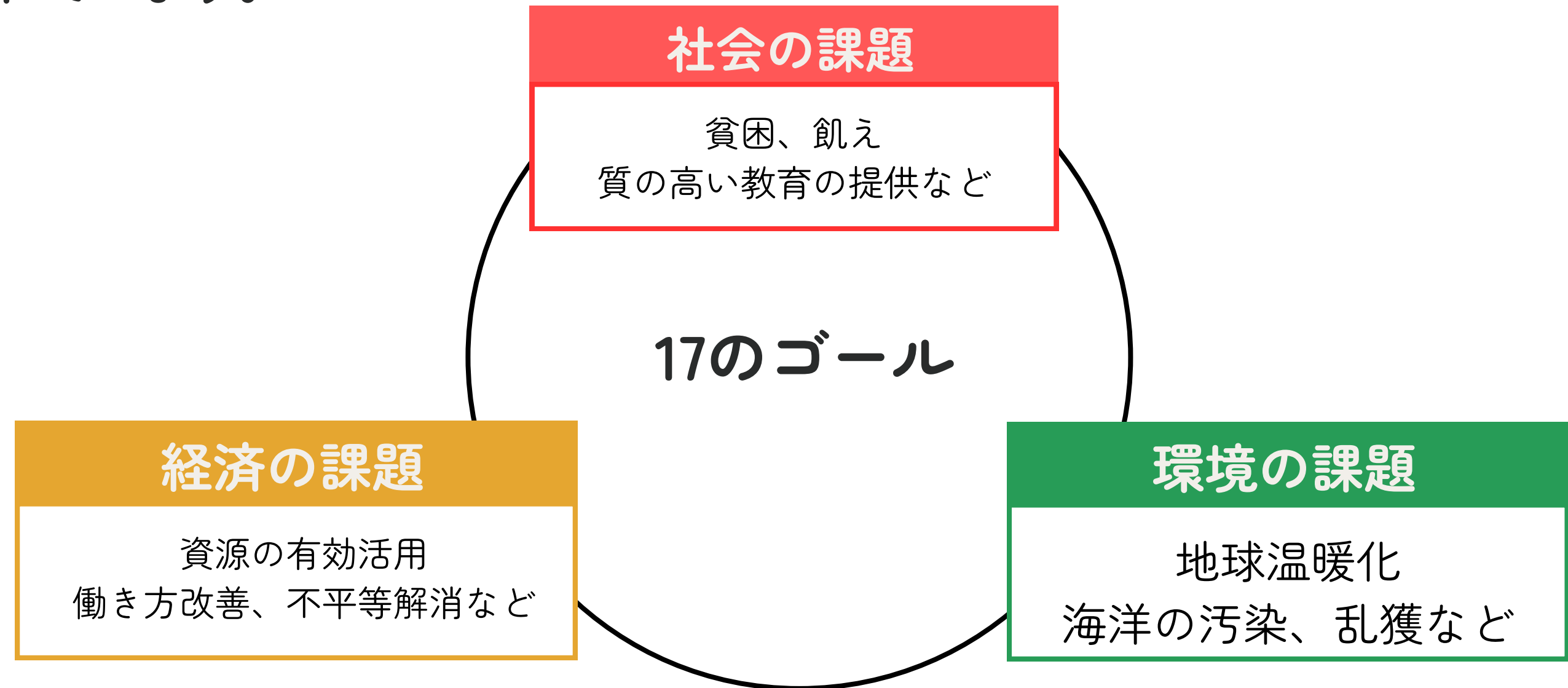
3年目以降～
事業内容に応じた
自走



01

SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals)は、国連サミットで採択された、「**誰一人取り残さない**」という理念をもとに取り組む世界共通の目標のことであり、2030年までの達成を目指しています。
目標となるゴールは、世界が直面する3つの**課題を解決するもの**として示されています。



02

SDGsが目指すゴール

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



03

那覇市における協働によるまちづくりの歩み

1998年	平成10年	第3次総合計画策定
2000年	平成12年	NPO活動支援センター設置
2006年	平成18年	協働によるまちづくり事業補助開始（～2012年） 『市民と行政との協働』の考え方
2007年	平成19年	市民協働推進課設置
2008年	平成20年	第4次総合計画策定 協働のルール作り、那覇市協働大使委嘱開始
2009年	平成21年	なは市民大学開始（後のなは市民協働大学）
2015年	平成27年	なは市民協働プラザ開設、なは市民協働大学院開始
2016年	平成28年	小学校区コミュニティ推進基本方針作成
2018年	平成30年	第5次総合計画策定、なは市民活動支援事業開始
2022年	令和4年	『協働の手引き』作成

協働の取り組みをはじめて**27**年

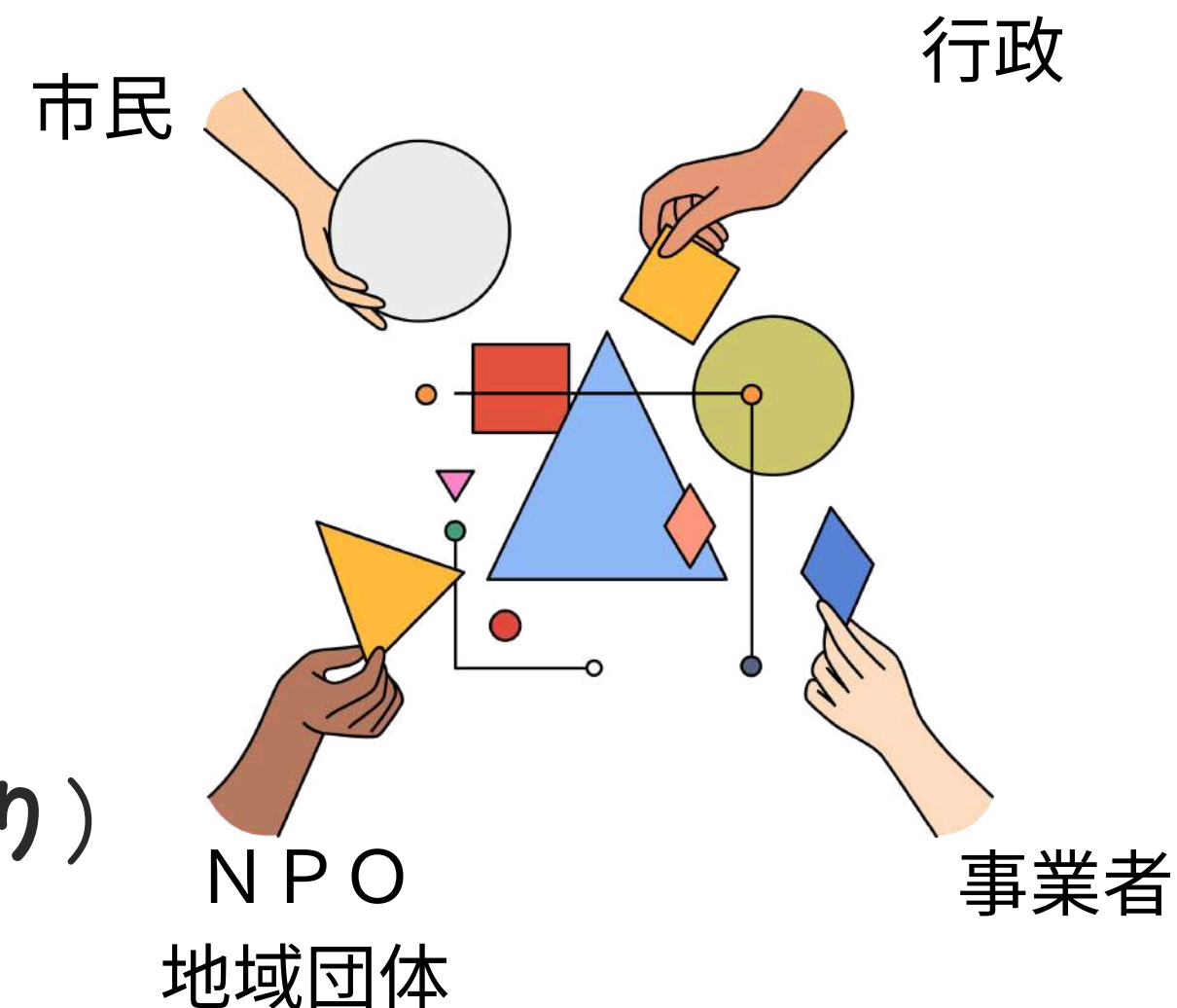


きょうどう
「協働」とは・・・

多様な主体が、同じ目的のために、
それぞれの特性を活かし、
補い合い、影響し合いながら、
協力して取り組むことです。

（「那覇市協働の手引き」より）

様々な主体の参画による
「協働」で地域課題を解決






05

那覇市SDGs推進方針

第5次那覇市総合計画 めざすまちの姿

- 多様なつながりで共に助け合い、認め合う **安全安心に暮らせる** まちNAHA
 - 互いの幸せを **地域と福祉で支え合い** 誰もが輝く まちNAHA
 - **次世代**の未来を拓き、 **豊かな学びと文化**が薫る誇りある まちNAHA
 - ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる **万国津梁**のまちNAHA
 - 自然環境と都市機能が **調和**した住み続けたいまちNAHA
- 

水辺の緑化ボランティア活動
特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ



毎月1回、土曜日の9時～10時30分の間、「漫湖」に造成された川岸で本来の水辺の自然を取り戻す活動をしています。ボランティアの皆さんと一緒に植栽活動や公園内の苗床で実生苗の育成をしたり、川岸のごみの回収を行っています。時には自然観察をするなど、季節の移り変わりを楽しめる朝活となっています。

このほかにも、児童クラブの子供たちを対象としたワンコインプログラムや講師の多彩な自然・環境の体験学習機会を提供し、SDGsの取り組みに励んでいます。

緑化活動に参加して、街中にも素晴らしい自然があることを身近に感じてみませんか？自然や環境を大切にする仲間を募集中です！

研究員 溝口 直美さん



SDGsに取り組む人たち

首里ミツパチ・花いっぱいプロジェクト
特定非営利活動法人 首里まちづくり研究会



花咲く王都首里で先人たちの軌跡をミツパチの視点でたどる、「ハニークウォーク(みつぱち散歩)」を行っています。首里の花と緑、蜜源植物、ミツパチの生態、歴史・文化の話を交えながら、一般の観光コースでは体験できないオリジナルのコースを巡ります。

また、市内で採れる蜜蝋を使い、ミツロウキャンドルづくりも行っています。地域の教会やホテルで使用していただき、クリスマスやキャンドルナイトなどのイベントを盛り上げています。

この活動を通して琉球王朝時代からSDGsがあったということがわかります。ぜひ、体験しに首里へお越しください。

事務局次長 新垣 伝さん



タコライスラバース・みらいチケット
一般社団法人 タコライスラバース



子どもたちのお腹と心を満たす活動として、沖縄県内各地の飲食店舗と協力し合い、無料で食事の提供が受けられる「タコライスラバース・みらいチケット」の普及活動を行っています。1枚300円前後の食事の引換券を大人たちが購入し、その引換券を使って子どもたちが食事の提供を受けることができます。現在202店舗の飲食店が協力加盟し、3年間で延べ5万5,000食を提供。市民の方々からのチケット購入や、県内の各企業も同活動に賛同するなど、SDGsの輪が大きく広がっています。

美味しそうに食べる子どもの笑顔が一番の宝。これからもタコライスラバースの一員として取り組んでいきます。

みらいチケット協力店
タコスプーン オーナー 伊芸 和能さん



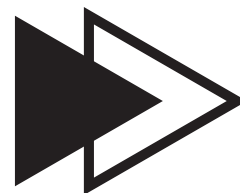
07

成果連動型補助金

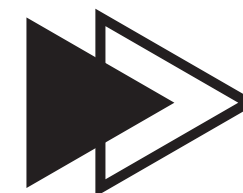
SIB（ソーシャルインパクトボンド）とは



市民が共感・賛同する
事業へ「出資」



資金提供者から調達した
資金を元に事業を行う



評価委員による評価の実施
(成果達成で市から市民へ資金返戻)

那覇市版SIBのスキームと期待できること



多くの関係者の参画により
成果達成を実現

SDGs達成につながる協働活動を創出

SIBの
実施

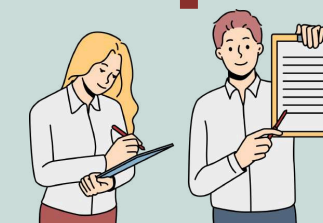


市民が共感・賛同する
事業へ「出資」

成果達成にて投資した
市民へ出資金を還付



出資者が事業に参画する



事業について
適正な評価の実施



実施団体



市民

自分たちについて知ってもらう



中間支援・伴走

継続して応援、会員になるなどの実施団
体との関係性の強化

資金や人手が不足して
活動が継続できない



【現状】

- ・継続した寄付や資金提供を行う文化がない
- ・市民活動についての興味が少ない方がまだ多い
- ・ファンドレイズの仕組みが成熟していない
- ・広報まで手が回らない

NPO等の課題を早期に発見し、
専門性を持って活動する人たちが登場



- ・貧困
- ・少子高齢化
- ・孤立化
- ・ライフスタイルの変化
- ・地球温暖化 等



貧困対策 孤立防止 多文化共生
市民の健康問題 インフラの維持
防災対策・災害対応 DX化 etc.



- ・資源（資金、人手）不足
- ・制度の複雑化

活動が継続しにくい「現状」を変化させ、実施団体の活動を市民が理解し、継続した活動へ
つなげ、各活動が地域の必要不可欠な事業（活動）になるような取り組みを推進する

09

今回募集を行う 2 事業のスケジュール

1年目（令和6年度） 助成事業

- ・ 令和 7 年度のSIBプロジェクトに向けての準備・検証・調査事業等へ助成
- ・ 事業助言・相談対応・地域円卓会議などの伴走支援

50万円（10割）の助成



今年度出資募集

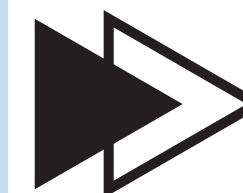
2年目（令和7年度） SIBプロジェクト

- ・ 成果連動型補助金
SIBによる支援
(出資募集や出資説明会の運営支援)

SIB実施による資金調達
50万円の投資を募る



令和 8 年
以降
事業内容
に応じて
自走



那覇市版SIBのスケジュール

2030年度までに合計12団体へ
それぞれ自走する事業になるよう伴走を行う
2030年には12の活動が継続し、地域に貢献し
続けている姿をイメージしている

調査・実証
(2団体)

2024年度
令和6年度

調査・実証
(新規2団体)

2025年度
令和7年度

調査・実証
(新規2団体)

2026年度
令和8年度

SIB実施
2団体

SIB実施
2団体

2027年度
令和9年度

SIB実施
2団体

調査・実証

2028年度
令和10年度

調査・実証

SIB実施
2団体

調査・実証

SIB実施
2団体

自走

自走

自走

自走

自走

2029年度
令和11年度

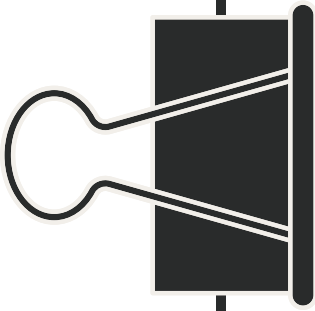
2030年度
令和12年度

調査・実証

1年目：SIBに向けての調査・実証事業へ50万円助成

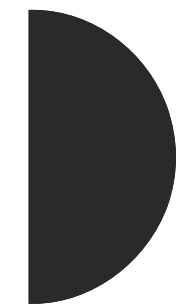
SIBプロジェクト

2年目：SIBによる資金調達（上限50万円）、事業の実施



11

おわりに



SDGs達成へ向けた **協働** の事業を創出し、社会課題を解決し、
持続可能な社会の実現 へ

